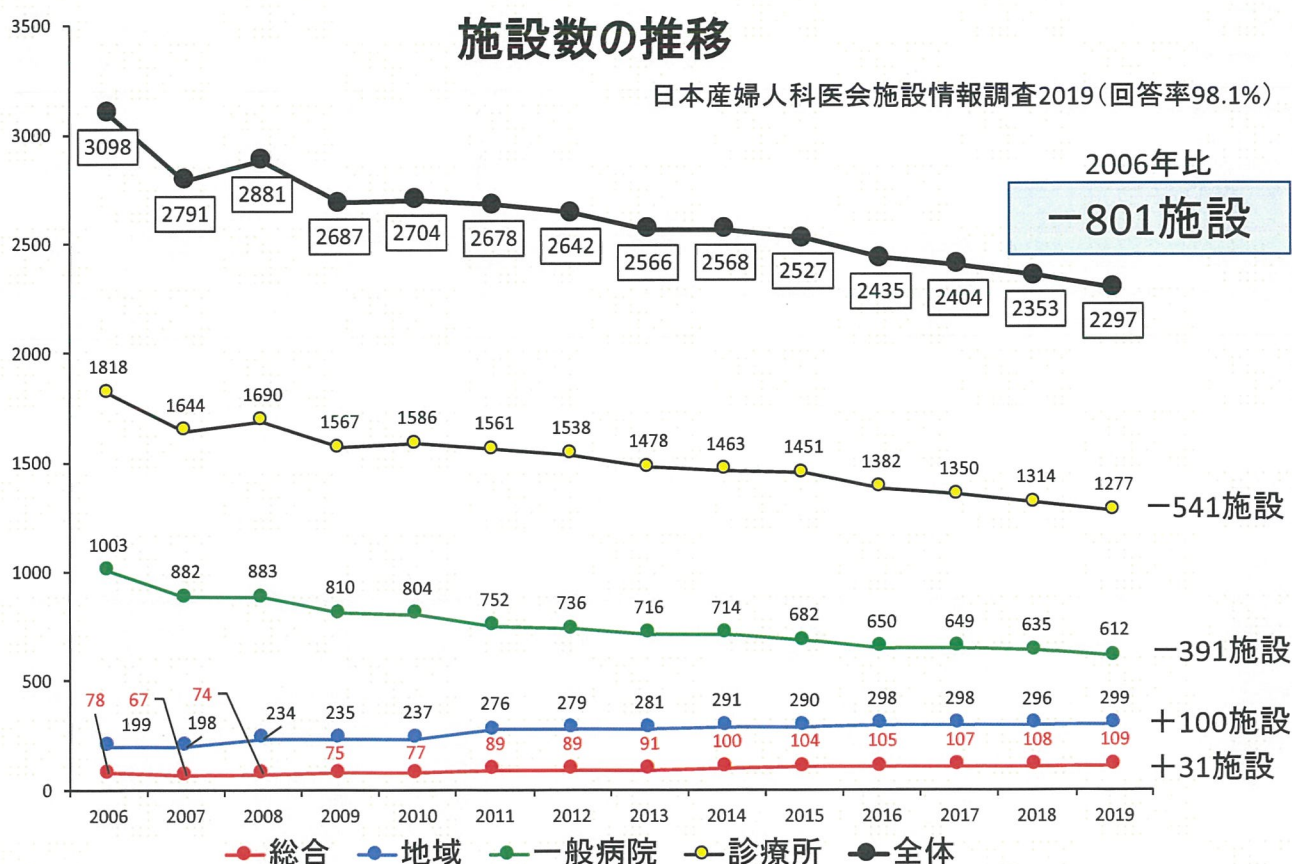


第139回記者懇談会 (2020.2.12)

時間外在院時間と副業・兼業の現状

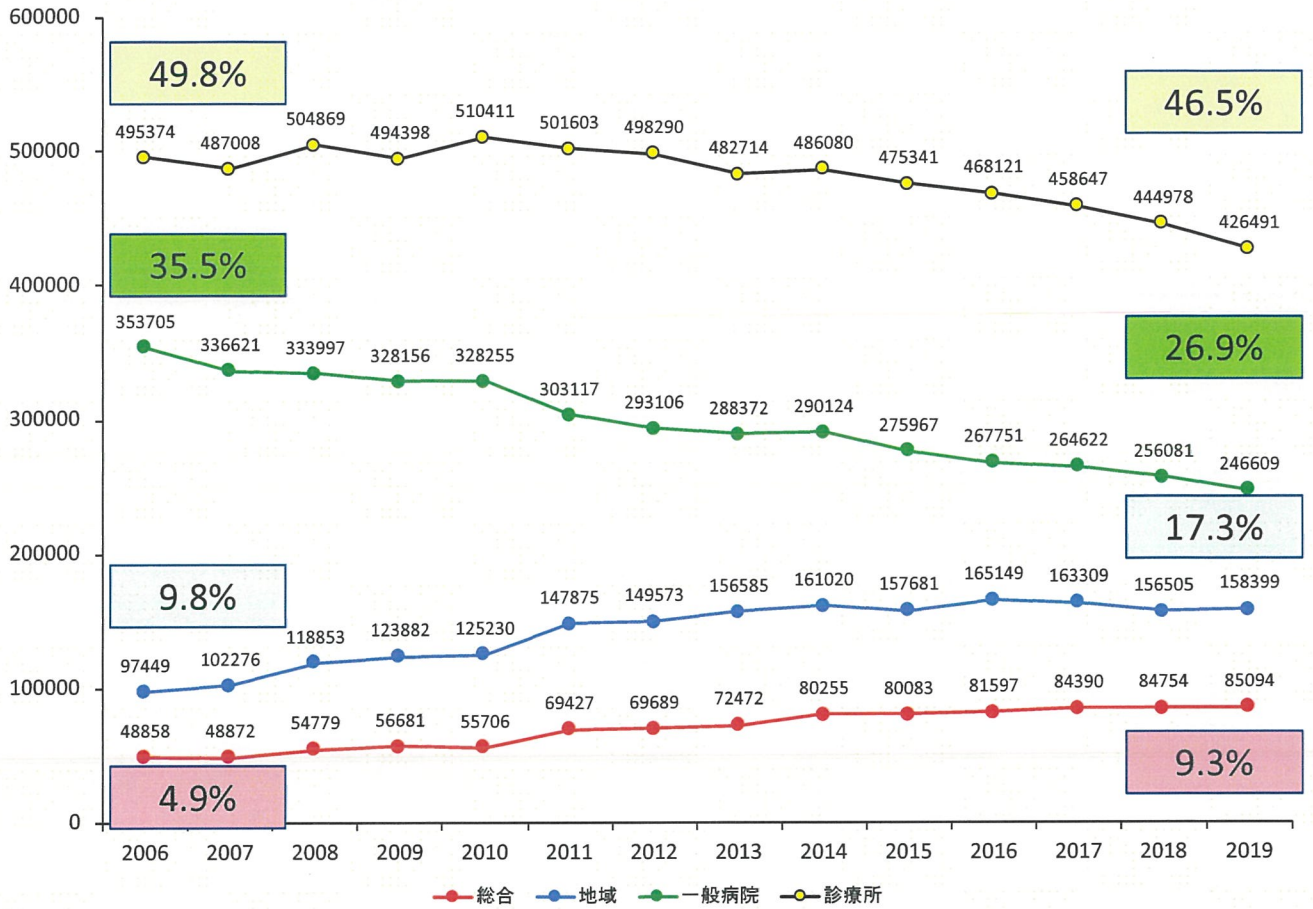
—日本産婦人科医会施設情報調査2019, 勤務医部会アンケート調査2019より—

日本産婦人科医会 常務理事
日本医科大学
中井章人



分娩取り扱い病院数は13年間で260施設減少

施設ごとの分娩数の推移 (2006年995,368分娩 2019年916,593分娩)

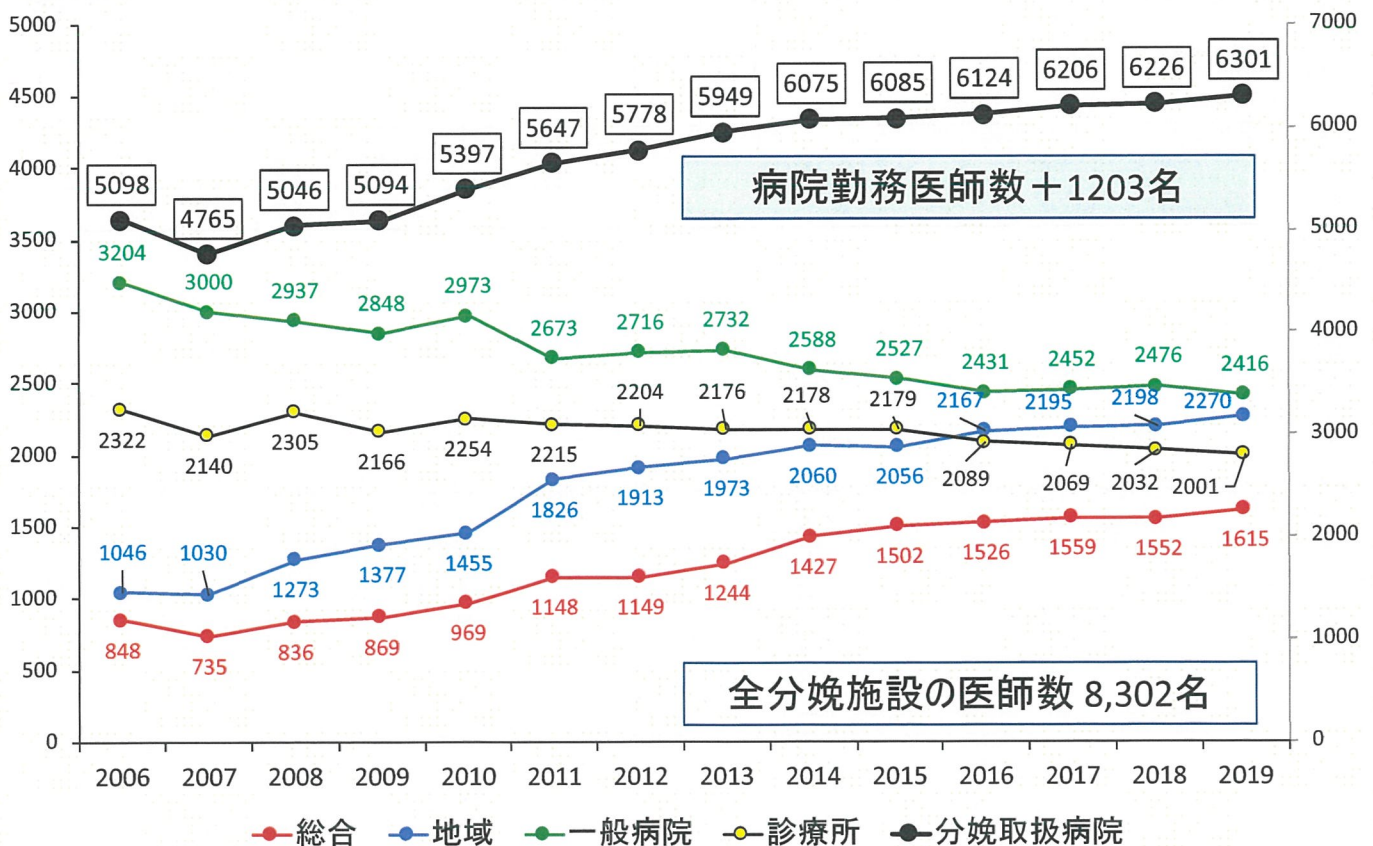


日本産婦人科医会施設情報調査2019(回答率98.1%)

常勤医師数の推移

施設ごとの
医師数

分娩取扱病院
医師数



日本産婦人科医会施設情報調査2019(回答率98.1%)

所定労働時間の算出

(週40時間, 1日8時間)

完全週休2日制(平均年休120日, 夏季休暇2日, 年末年始3日)
 $(365日 - 125日) \times 8時間 \div 12ヶ月 = 160時間$ (月平均)

変形労働制(1ヶ月単位)

31日の月; $31日 \div 7日 \times 40時間 = 177.1時間$
 30日の月; $30日 \div 7日 \times 40時間 = 171.4時間$
 28日の月; $28日 \div 7日 \times 40時間 = 160.0時間$

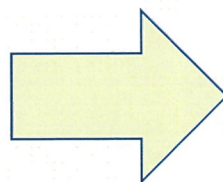
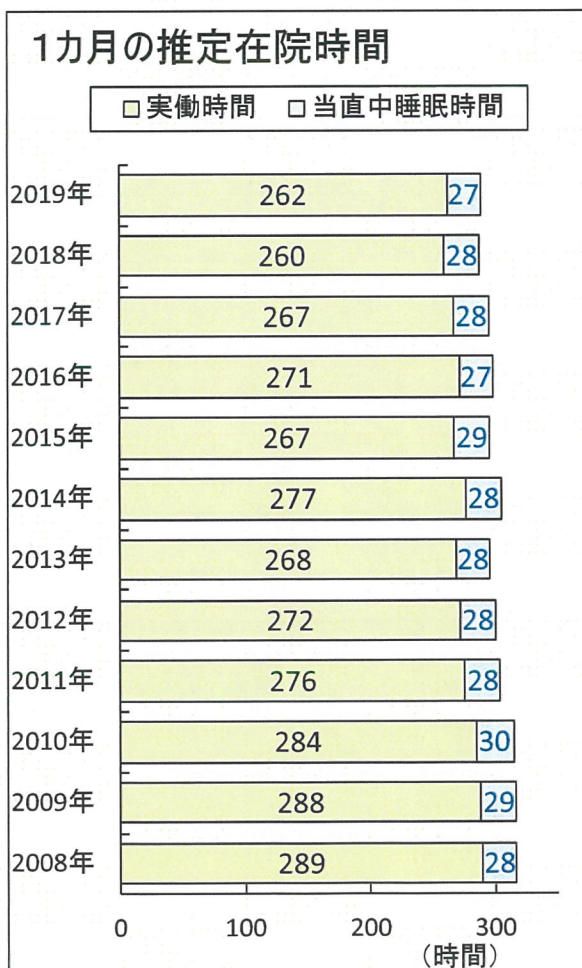
月平均; 173.5時間

休憩時間(8時間あたり1時間)

31日の月; $31日 \div 7日 \times 5時間 = 22.1時間$
 30日の月; $30日 \div 7日 \times 5時間 = 21.4時間$
 28日の月; $28日 \div 7日 \times 5時間 = 20.0時間$

月平均; 20.0時間

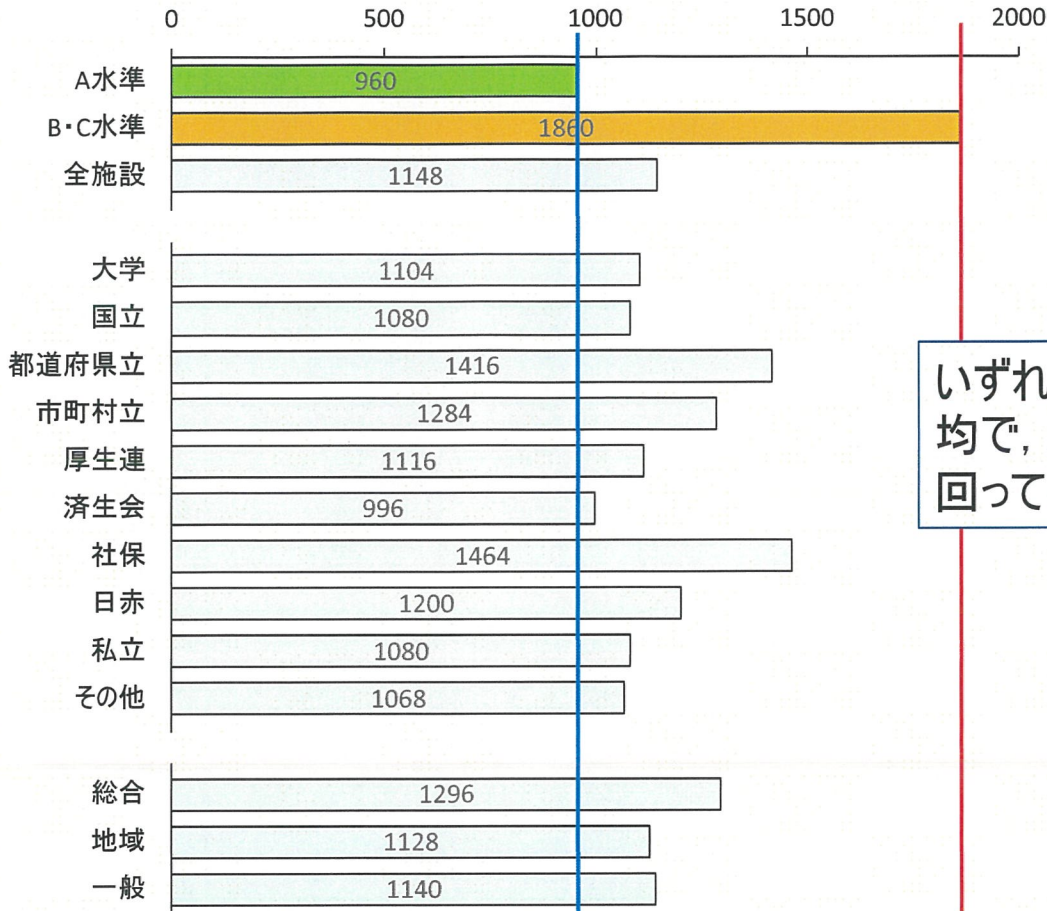
1ヶ月の所定労働(在院)時間を193時間として算出



平均在院時間から所定労働時間を除き, 年間時間外在院時間を算出,



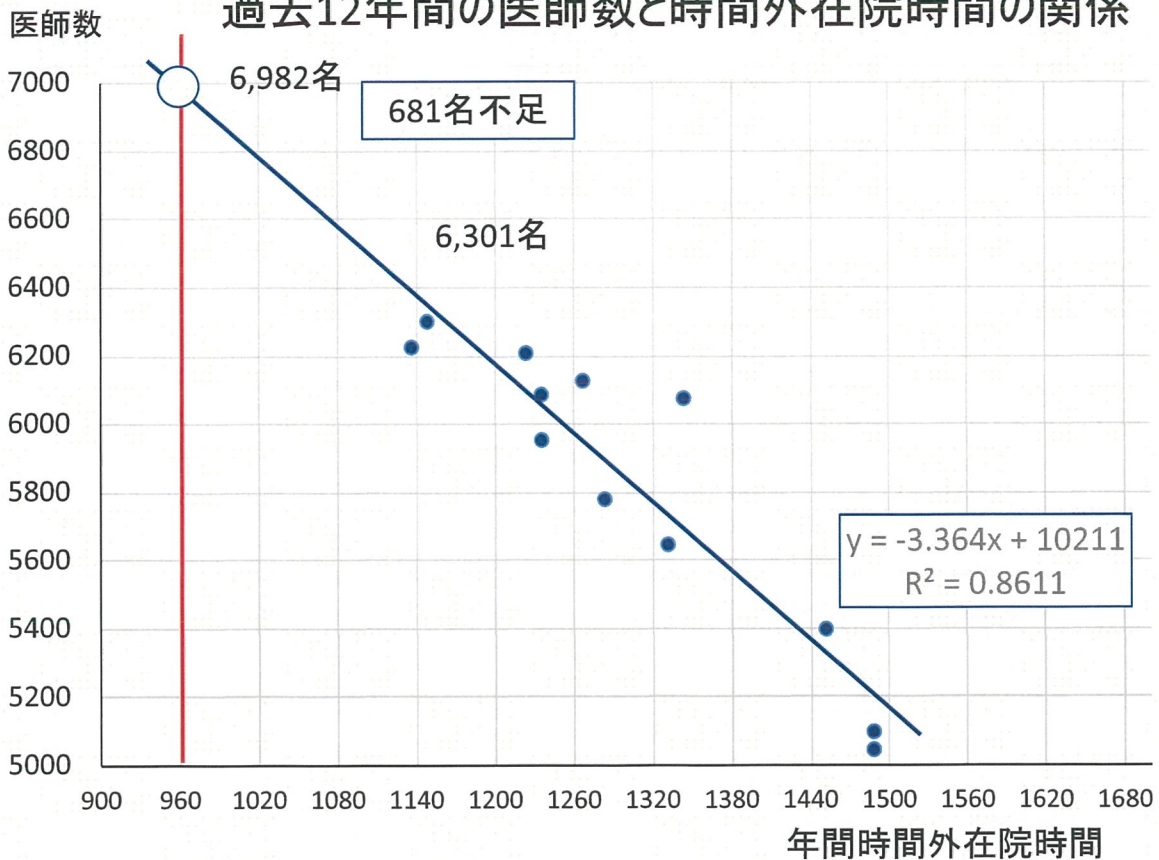
年間推定時間外在院時間



いずれの施設も平均で、A水準を上回っている

日本産婦人科医会勤務医部会アンケート2019, 表5(p 21)より算出

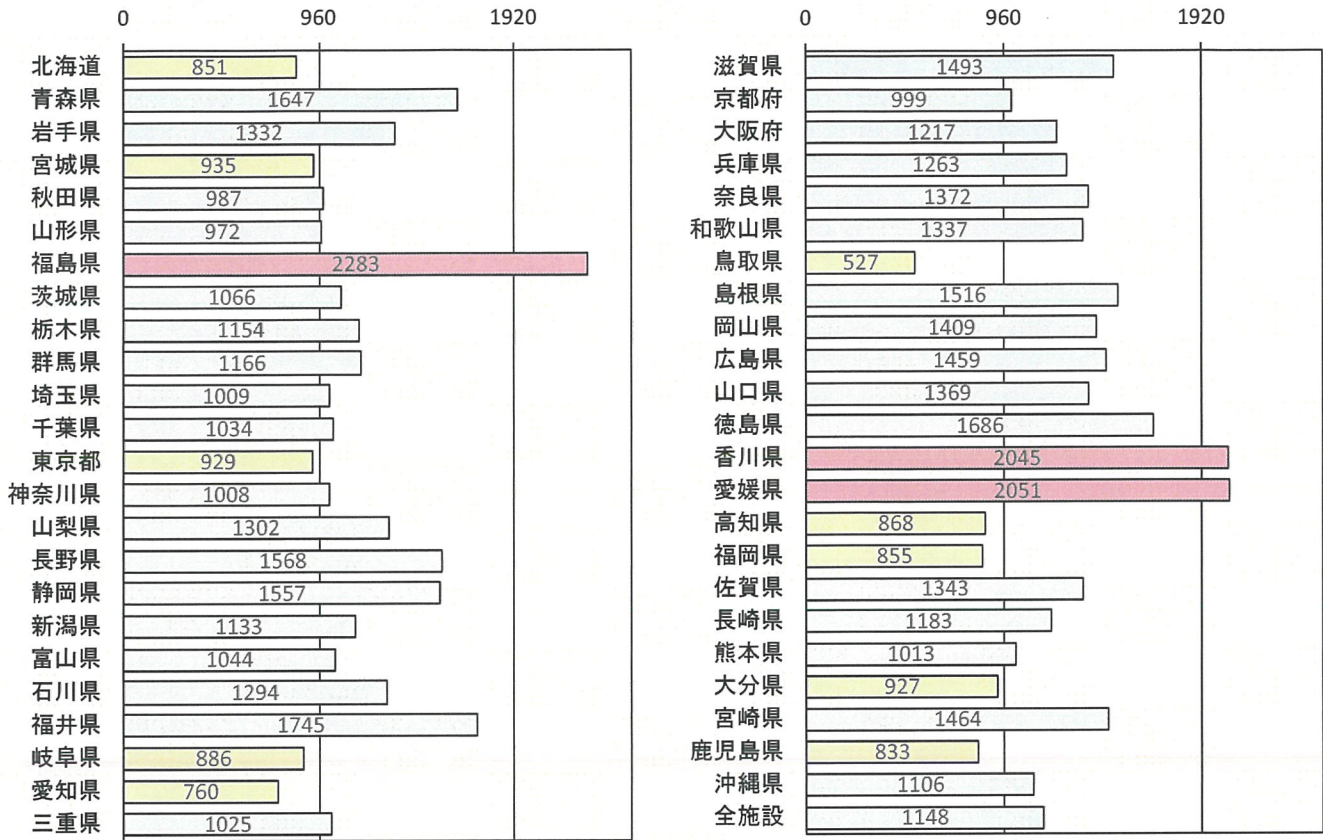
過去12年間の医師数と時間外在院時間の関係



在院時間は医師数と密接に関連し、A水準到達には約700名不足している

日本産婦人科医会施設情報調査2019と日本産婦人科医会勤務医部会アンケート2019より算出

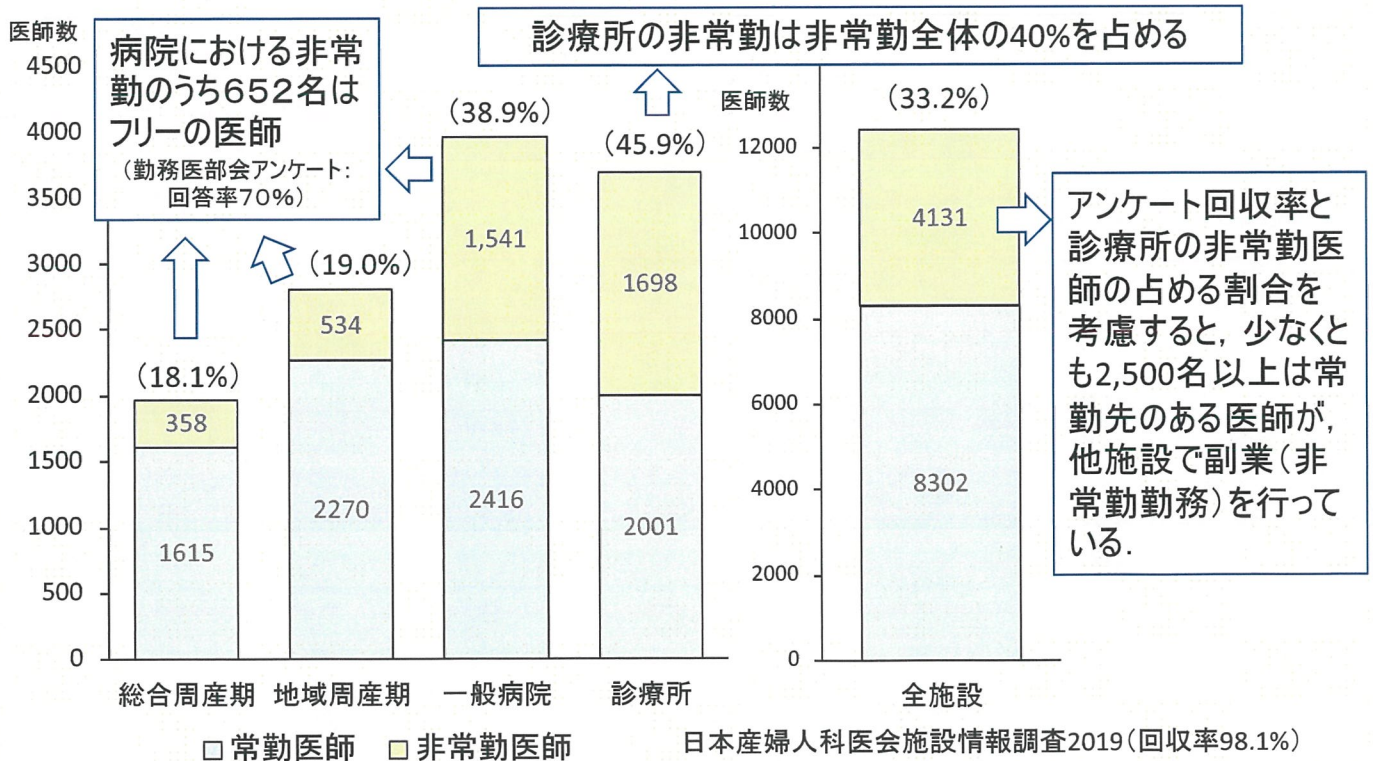
都道府県ごとの年間推定時間外在院時間



日本産婦人科医会勤務医部会アンケート2019, 表9 (p 24) より算出

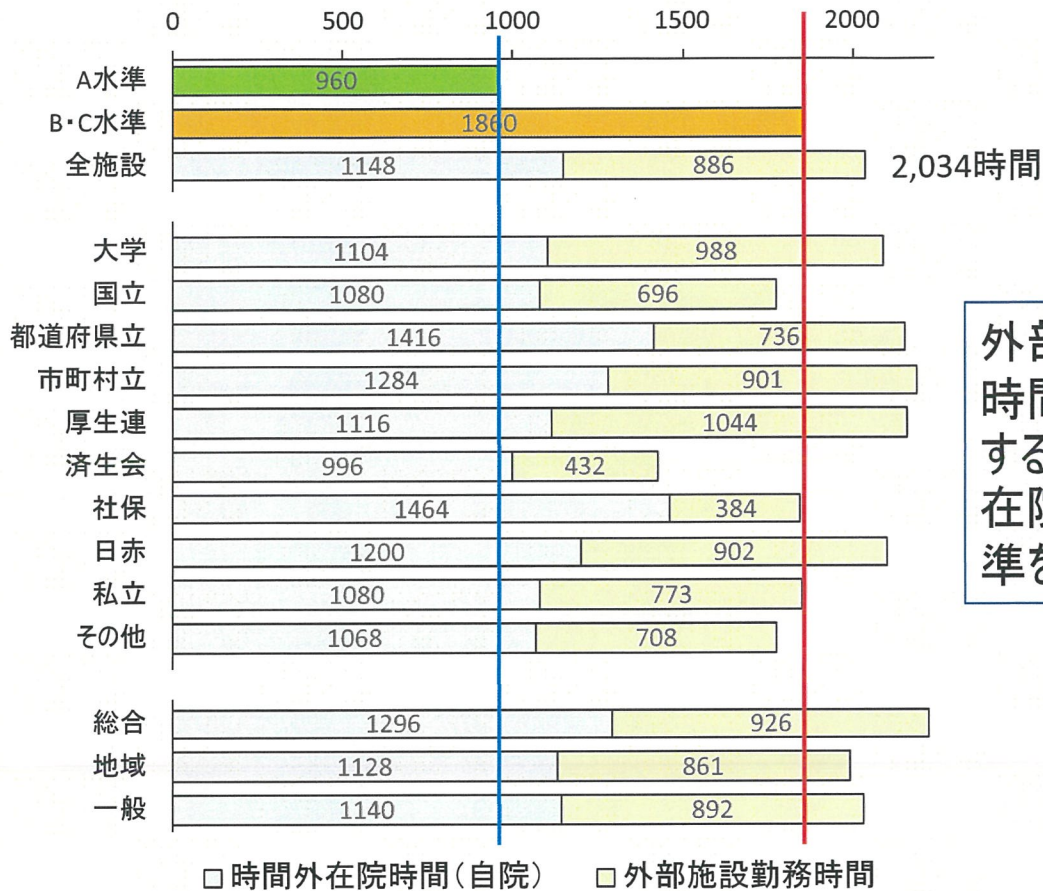
時間外在院時間は都道府県により異なり, 3倍以上の較差がある。

施設機能ごとの常勤医師数と非常勤医師数



少なくとも2500名以上は副業を行ない, 診療所をはじめ多くの分娩施設は, 非常勤医師に依存し運営され, 地域医療を支えている。

副業(外勤)を含めた年間時間外在院時間



外部施設の勤務時間(副業)を勘案すると、全体の平均在院時間はB・C水準を上回る。

日本産婦人科医会勤務医部会アンケート2019, 表5(p 21)より作成

まとめ

- 1) 全国分娩取扱病院の推定年間時間外在院時間は1148時間で、A水準を上回る。
- 2) 時間外在院時間は都道府県により異なり、3倍以上の較差がある。
- 3) 在院時間は医師数と密接に関連し、A水準到達には約700名不足している。
- 4) 外部施設の勤務時間を勘案すると、全体の平均在院時間はB・C水準を上回る。
- 5) 診療所をはじめ多くの分娩施設は、常勤医師に非常勤医師を加え運営され、地域医療を支えている。
- 6) 副業に関する規定次第では、医療崩壊に繋がる恐れがある。